

2019年度 自己評価報告書

対象期間 自:2019年4月1日
至:2020年3月31日

2020年6月

はじめに

秋田コア ビジネスカレッジでは、教育理念・教育方針に基づき、特徴を活かした学校運営や教育活動の継続的な向上を推進するために、自己評価及び学校関係者評価を実施し、その結果を公開しています。

本報告書は、学校関係者評価委員会を開催し、そこでご指摘いただいたコメントを加えることで、組織的・継続的な改善を図るうえでの指針の役割も果たすものと捉えています。

なお、自己評価報告書及び学校関係者評価報告書の公開は、文部科学大臣により認定される「職業実践専門課程」の認定要件となっています。

1. 学校の教育理念および教育方針

本校では、教育理念、教育方針を以下のように定めている。

<教育理念>

1. 誠実な人材の育成
時代が変化する中でも、職業人として「誠実な」生き方ができる人材の育成をしていきます。
2. 誠実な教育の実践
時代や学生の要求する知識・技術が習得できるように誠実な教育を実践していきます。
3. 誠実な学校
学校が、地域社会の一構成組織体として、社会に範たる存在となることを目指していきます。

<教育方針>

1. 実践・実務教育
資格取得や技術を習得して、社会貢献できるための「実践・実務教育」を行い、プロフェッショナル(理論と応用及び実践力を備えた職業人)を育成していきます。
2. 個育成教育
個々人の創造性・独創性や、持っている能力を最大限引き出すための「個育成教育」を行い、クリエイティブ(創造性・独創性)で、何事にも積極的に取り組む人材を育成していきます。
3. 全人教育
専門知識で裏打ちされた豊かな人間性を育成するための「全人教育」を行い、ヒューマニティ(幅広い専門知識に裏打ちされた豊かな感受性)に満ちた人材を育成していきます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 主体性を育む教育方法を確立し、高度な資格検定の取得率向上を図る。
2. 習得した知識や技術を社会で応用できる実践的な職業教育を行う。
3. 業界や地域社会と連携を図りながら、県内企業への就職を推進し、定着に努める。

3. 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・教育方針・目的・育成人材像等 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

	評価項目	評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色は示されているか	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

現状・課題と改善策

1	<ul style="list-style-type: none"> 教育理念、教育方針、本校の特色を明確にし、ホームページやパンフレットで公開している。 2019年度より、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを明記している。
2	
3	<ul style="list-style-type: none"> 社会が求める即戦力人材育成のニーズを踏まえ、学科の再編成、見直しを行っている。 学校の将来像を描き、最新技術や傾向を分析・導入し、時代を先取りできるよう対応している。
4	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対しては入学時のほか、ホームページやパンフレットで公開しており、学生会が発行している学校通信を通じて、学科の特徴や取り組み、学校の教育活動について周知を図っている。 学生に対してはオリエンテーションや集会のほか、学生便覧や日々の授業を通して伝えている。
5	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に教育目標、育成人材像を掲げ、学校関係者を交えて確認している。 学科コース編成委員会を開催し、業界のニーズを分析して学科、コースの方向性を議論・実践している。

(2) 重点目標 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

	評価項目	評価
1	主体性を育む教育方法を確立し、高度な資格検定の取得率向上を図る。	3
2	習得した知識や技術を社会で応用できる実践的な職業教育を行う。	4
3	業界や地域社会と連携を図りながら、県内企業への就職を推進し、定着に努める。	3

現状・課題と改善策

1	<ul style="list-style-type: none"> 国家資格の取得率向上へ向け、カリキュラムの変更や指導方法の工夫等の取組みを図っている。 将来のキャリア形成における資格取得の意義を、継続的に学生に伝えている。 国家資格の取得率向上へ向け、教育課程(カリキュラム)の変更や指導方法の工夫等の取組みを図っている。(2018年度レストランサービス技能検定3級合格率100%)
2	<ul style="list-style-type: none"> 地域の企業と連携して企業実習を行うなど、実践的な職業教育を行っている。2018年度より企業からの講師派遣により実践的なテーマで演習を実施している。
3	<ul style="list-style-type: none"> 企業連携科目や企業見学、インターンシップの機会を設け、県内企業へ興味を持たせるよう対応している(県内就職率56.0%) 2019年度は県内就職率が50%台にまで落ち込んだが、他の県内大学等に比べると依然として高い水準である。

(3) 学校運営 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

	評価項目	評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

現状・課題と改善策

1	・運営方針を事業計画・予算に反映させ、組織として活動できるようにしている。
2	
3	・寄附行為及び組織図に明記され、有機的な機能を図っている。校長が教育的な観点から学校経営を行っている。
4	・法人(学園)において規程を定めている。目標管理に重点を置いた自己評価制度である勤務評価制度を実施しており、人事評価に用いている。
5	・法人(学園)の規程に則って整備されている。今後も継続して意思決定システムの研究を進めていく。
6	・個人情報保護について規則の強化を図っている他、ネットワークセキュリティ機器も活用している。事業計画・予算、事業報告・決算等をホームページを通じて公開している。
7	・学校案内パンフレットやホームページ上の情報公開ページで適切に公開している。 ・学生の活動状況をホームページに掲載しているが、学科により更新頻度が異なるので、計画的にかつリアルタイムで発信していく。
8	・出席状況および資格情報の入力をWebへ切り替え、データの一元化を進めるなどの改善がされている。データや入力方法など以前のシステムとの統合に向けた対応を順次検討・実施する。 ・情報システム化は進行中であるが、学生データリストや進級面接、アンケートシステムの更なるシステム化や再調整も検討を進める。

(4)教育活動 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3

現状・課題と改善策

1	・教育理念に基づいて、学科ごとに方針を策定し、教育課程を編成している。
2	・教育課程編成委員会等を通して業界のニーズを把握し、教育理念を基に育成人材像を明確にした上で教育到達レベルに必要な学習時間を確保し、シラバスに明示している。社会環境の変化によって求められる人材も変わるため、継続的に行っていく必要がある。
3	・シラバス内で科目間の関連を明確化している。新しい技術等に対応するため、継続的に見直しを図っている。
4	・カリキュラムにキャリア教育、専門関連業種でのインターンシップ、企業見学、ジャンプアップ講座(企業人や卒業生による講座)等の実践的な教育を組み込んでいる。 ・アクティブラーニングの時間をさらに増やせるよう検討を進める。 ・キャリアコーディネーターと連携をとりながら、授業の中でサポートをしている
5	・教育課程編成委員会などで関連分野の企業の意見を取り入れながら、カリキュラムを最新の業界動向に合わせ見直しを図っている。 ・教育課程編成委員会等で企業側と意見交換し、よりよい教育環境の整備に取り組んでいる。
6	・実践的な職業教育の視点に立ち、カリキュラムに関連分野のインターンシップ、企業見学、職業人講話等を組み込んでいる。
7	・前期、後期の終了時に、学生による授業評価を実施している。
8	・教育課程編成委員会を通して、職業教育の実施内容に対する評価や意見をいただき、継続的に改善を図っている。
9	・学則や教務規定により、成績評価・単位認定の基準、進級・卒業判定の基準を明確にしている。
10	・資格対策授業をカリキュラムに組み込み、体系的に指導している。
11	・関連分野での就業経験があり、専門スキルの高い教員の確保に努めている。さらに複数人体制を整え、学生に対してきめ細かい指導ができるようにする。 ・担当教員が1名退職した後、補充がなかった。(2020年度に採用され、今は改善されている。)
12	・関連分野の企業と連携を図り、専門科目の非常勤講師や職業人講話の講師の確保に努めている。 ・業界ニーズを的確に捉えて、学科やクラス運営ができる人材の育成を継続的に行う。 ・担当教員が1名退職した後、補充がなかった。(2020年度に採用され、今は改善されている。)
13	・業界の動向や、最先端の知識・技能を把握するため、外部研修やセミナーへ参加している。 ・最新動向の取り入れのため、継続して教員のスキルアップに努める。 ・最新技術に対する技術研鑽のセミナー開催がないため、教員の自己啓発が主となっている。

(5) 教育成果(学修成果) (適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1)

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

現状・課題と改善策

1	・就職希望者における内定率は100%を維持している。
2	・資格取得に対する学生の意欲は向上しているが、十分な資格取得成果とはいえなため、学生の意欲を維持しながら効果的な資格対策を図る。 ・高度な資格取得意欲を持つ学生が少なく、モチベーションを向上させる手立てを構築する。
3	・退学率が2018年度末4.1%から2019年度末8.1%と悪化した。 専門職として働くビジョンを持ちながら学習のモチベーションを維持できるよう、授業の工夫をする他、定期的な面談実施により学生と問題意識を共有して解決を図る。 ・退学理由の最多は学習内容のミスマッチによる進路変更であり、90%を占めた。オープンキャンパス等での理解促進を図ったり、入学前のリメディアル教育及び日常のコミュニケーションを通じて不安をキャッチし、指導を心掛ける。
4	・卒業生を対象に、3年前から追跡調査(定着率調査)を実施し、少なくとも卒業後3年間の状況は把握するようにしている。現状の把握率は80%超(2019年3月卒84%、2018年3月卒86%、2017年3月卒83%)である。 ・企業連携等を通じて企業からの学生の評価を把握している。
5	・特定の業界や一部の卒業生については卒業後のキャリア形成への効果の確認はできている。 ・卒業後のキャリア形成への効果を確認するため、3年間は卒業生の状況調査を継続して行い、教職員間で情報共有する。

(6) 学生支援 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

	評価項目	評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3
7	保護者と適切に連携しているか	3
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

現状・課題と改善策

1	・就職支援課を置き担任や就職担当、キャリアコーディネータによる体制を整備しているほか、外部講師と連携し支援している。
2	・相談内容によっては教員では対応しきれない場合があるので、連携できる専門医や専門家を確保し、学生が相談できるような体制をつくる。
3	・高等教育の修学支援新制度(授業料無償化、2020年度より実施)の認定申請を行い、文部科学省により対象機関として認定された。(専修学校認定率は全国で62.3%) ・「コア奨学金制度」(経済的理由により修学が困難な学生に対して、授業料20万円を減免)を2名の学生に適用した。 ・「秋田県私立専修学校専門課程修学支援実証研究事業」の支援校に本校が指定されたため、この学生2名は10万円の追加支援金を支給されたほか、修学支援アドバイザーから貸与型奨学金についての講演や卒業後の財政的生活設計に係る助言を受けた。
4	・メンタルヘルスマネジメントについては教員では対応しきれない場合があるので、連携できる専門医や専門家を確保し、学生が定期的に通院できるような体制をつくる。 ・学生の健康管理は担任を中心に他の教職員が随時対応しているが、組織体制までは整備できていない。体の健康のみならず、スクールカウンセラー等との連携も検討する。 ・カウンセリング講座の研修を受講している教員がいる。
5	・学生会を設置してサークル活動を支援する予算を確保するなど、学生が活動を行う環境を整備するとともに、活動の助言や支援をしている。
6	・三者面談を定期的に行い、学生の生活について把握、助言を行っている。さらに日頃のコミュニケーションの頻度を高め、危機意識を持って早期の把握と迅速な対応に努める。 ・個人面談等を行い学生の状況を把握するようにしている
7	・教員と保護者の中で連絡先をお互いに確認し合い、緊急時や学生の不登校などの状況に備えている。 ・定期的に三者面談を行っており、特定の学生の保護者とは不定期に情報交換(2者面談)を行っている。
8	・卒業後も相談に来る学生に対し就職支援を行っている。担任が定期的に連絡を取り合う等して状況を把握し、継続的に支援できる体制をつくる。
9	・業界の実務に必要なスキルを身につけるため、実際の現場を意識して演習を実施したり設備を用意したりしているが、より良い教育環境を整えるため、企業や業界団体との連携によって学外で利用できる施設・設備等を確保する。 ・社会人に対する「長期高度人材育成コース」(2年間の入学・授業料の本人負担なし)を県より受託し、情報システム科IT・アプリコースと同様の科目を学ぶITエンジニア養成科を設け、初年度である2019年度は2名の受講生を受け入れた。
10	・学校見学の受け入れや模擬授業を通して、高校生へのキャリア教育や職業教育を不定期に行っているが、一部の内容にとどまっているので、高校の長期休暇を活用するなどして、体系的・継続的にキャリア教育・職業教育を行うようにする。

(7) 教育環境 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

	評価項目	評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
3	防災に対する体制は整備されているか	3

現状・課題と改善策

1	<ul style="list-style-type: none">・パソコンを買い替える等必要な設備を確保し環境を整えてはきているが、数量やスペックに余裕のある整備になるよう、計画的な設備更新・メンテナンスと補助金の活用を図る。・ネットワークの不通箇所が出てきたため無線LAN環境の増設を実施した。
2	<ul style="list-style-type: none">・連携企業先やインターンシップ先企業と協力して、指導体制、施設環境を整備している。・学科の教育課程に則したインターンシップ・実習先を更に開拓する必要がある。・2018年度に続き2019年度も、IT系学科は最先端技術に関する東京での視察研修を行った。・インターンシップについては企業の都合により、短期にとどまったものがあった。・海外研修についてトライアルを開始した。週末の企業内実習や長期実習を実施した。
3	<ul style="list-style-type: none">・毎年、防災訓練及び緊急地震速報訓練を実施し、防災体制を整えている。・訓練時以外でもホームルームの時間などを活用し、日常的に意識付けを行っている。

(8) 学生の募集と受け入れ (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
3	学納金は妥当なものとなっているか	4

現状・課題と改善策

1	<p>本校の特徴、実績、就職状況、資格取得状況など、正確に提供できるよう配慮して募集活動を行っている。</p> <p>今年度から入学案内およびホームページに3つのポリシー「ディプロマポリシー」(卒業認定・学位授与の方針)、「カリキュラムポリシー」(教育課程編成実施の方針)、「アドミッションポリシー」(入学受入れの方針)を明記、募集活動においても周知させていく。</p>
2	入学案内、ホームページ、LINE、チラシ、DMIはがき等で教育成果を伝えている。
3	入学金、授業料、実習費等については年度ごとに見直しを行っている。

(9) 財務 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

現状・課題と改善策

1	<ul style="list-style-type: none">・無借金経営を継続している。・企業連携による新しい取り組みや県内就職推進に、県私立大学等即戦力人材育成支援事業補助金を活用している他、2019年度より日本医師会医療秘書養成機関認定に伴い、県医療秘書養成支援事業補助金を活用している。・安定した学校経営のために社会情勢に合わせた学科、コース編成や学生募集の在り方の検討を継続して行う。
2	・事業計画に沿った予算・収支計画を立てており、その管理を月単位で行っている。
3	・公認会計士による会計監査を、半期ごとに年に2回行っている。
4	・ホームページ上で財務情報を公開している。

(10) 法令等の遵守 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

	評価項目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4

現状・課題と改善策

1	・学校教育法および専修学校設置基準等の関連法令の順守を心掛け、関係所管からの通知等を教職員に回覧し周知するとともに、特に重要な案件については対応を協議している。
2	・学生全員にホームページ等への掲載に関する承諾書を得ている。学生の情報を適切に保全するため、今後も継続的に個人情報保護規程に則り、ルール運用を徹底する。
3	・教職員のほか、学校関係者評価委員と課題を共有し、改善方針についての取り組みと振り返りを行っている。 ・自己評価委員会において教員間で問題点や改善方針の共有を図っている。
4	・自己評価報告書を、学校関係者評価報告書や財務情報とともにホームページで公開している。

(11) 社会貢献 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

現状・課題と改善策

1	・社会人や求職者向けの教育訓練の場を提供したり、学生によるパソコン講習を行ったりしているが、学生が主体的に行う社会貢献や地域貢献の機会が少ないため、学生会活動を通じて地域住民の方々との交流やボランティア、多分野にわたる講座を実施する。 ・付帯事業を通じて社会貢献・地域貢献をしていると考えるが、必ずしもニーズをとらえたものとはいえないため、ニーズに合った事業を展開する。
2	・学生にボランティア活動の紹介を行い、実際に清掃活動やあいさつ運動を行っている。地域貢献ボランティアとしてクルーズ船ボランティアも実施している。 ・授業の一環として、ボランティアに参加できるよう企業・団体等へ働き掛けている
3	・公共職業訓練を受託し積極的に実施している。パソコン講習会等の地域住民の方々に還元する講座の実施を増やしていく。 ・社会人向け講座として、パソコン講習会(学生主催)2回、職業訓練4コース、介護福祉士実務者研修1コース、基礎的ITセミナー3コース、ITマスター派遣2件、簿記講座等を実施した。 ・小・中学生向けプログラミングスクール(魁新報社主催)に協力し、2日間で合計約160名の親子を対象に講座を実施した。